

半田さんをおくる

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大塚, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00000296

半田さんをおくる



本年3月をもって、36年の長きにわたり教育学部のみならず、静岡大学の地学系各教室の中心としてその活動を支えられてきた半田孝司技官が静岡大学を去られることになった。

半田さんが県立静岡工業高校を出られ、静岡大学へ来られたのは昭和31年、日本はまだ貧しく戦争の痛手も残っていた時代であった。しかし当時の大岩キャンパスの古い理科館には、望月、佐々倉、竹内の各先生を中心に学部を越えて地学関係の人々が集まり、和気あいあいとした雰囲気の中で研究、教育が営まれていた。この中に半田さんは迎えられ、一方では貧弱であった研究設備、教育環境を手作りで整えるという重責を担い、他方ではこれら各先生による薫陶を受けられていったのである。

学部をこえて地学関係の各教室の人々が分け隔てなく一体となって活動するという、静岡大学地学系の特色ある伝統はこのような環境で育まれていった訳であるが、長くその伝統が貴重なものとして維持されてきた原動力として、地学教室の中心にこの伝統を具現化した半田さんの存在があり、歴代のスタッフ達を動かした事実があったのだと思う。

このような静岡大学の初期スタッフの残したものとして静岡県地学会が挙げられる。地球の自然の本質を一般の方々に広めようという主旨で作られたこの会の中で、半田さんは会員達を把握し、財政面一切を切り盛りし、更に多様な各種の行事を計画実行した上で、雑誌の企画、発行を行なうという、多くの困難な仕事をこなし、地方の学会としては特筆される活発な活動の全てを支えて来られた。

もちろん大学では、緻密で誠実な仕事ぶりで事務的な各種の業務をこなし、どちらかといえば迂闊な地学のスタッフの足らぬ点を補い、かつ授業や実験、実習の準備をされ、また一部を担当された。学生達の様々なトラブルにまでも丁寧な愛情をもった対応をされて皆から慕われていたのは無論である。様々な内容の研究においても、共同研究者として手伝うというよりはむしろ自ら率先してなされた綿密な仕事を残されている。

個人的には地学教室挙げての事業として始まり、次第に先細りしながらも続けられた光波測定の観測で、小笠、身延、村山、浜北や果ては大町までも同行してお手伝いさせていただいたこと、また岩石園作りで、企画立案から、進行スケジュール調整、各地での実地調査、搬入の準備など一緒に県内各地を駆け回ったことなど忘れられない。それらにもまして、機会ある度に四方山の話に花を咲かせた事々、今は良い思い出である。

この度我々にとっては誠に残念なことではあるが、静大から転出され新たな道へ進まれる。持ち前の若々しさを保ってますます御活躍されるように、また御壮健で過ごされるよう願って感謝の言葉としたい。

1991年4月15日

教育学部地学教室

大塚 謙 一

半田孝司技官 略歴

昭和12年12月 1 日 静岡県島田市に生まれる
昭和25年 3 月 静岡県島田市初倉小学校卒業
昭和28年 3 月 静岡県島田市初倉中学校卒業
昭和28年 4 月 静岡県立静岡工業高校入学
昭和31年 3 月 同校電気科卒業
昭和31年 7 月 静岡大学教育学部 技術補佐員（地学）
昭和32年10月 同 技術員（地学）
昭和37年 5 月 同 文部技官
平成 4 年 3 月 静岡大学教育学部 退職